

第1回幼稚園の在り方検討委員会の振り返り

1 前回の協議議題・結果

(1) 山東幼稚園の抱える課題について共有

- ① 就園児数の減少
- ② 施設が老朽化しており、維持に多額の改修費が必要

②の補足

人件費、光熱水費等山東幼稚園の維持に必要な費用

⇒令和2年度幼稚園管理運営事業決算額 **58,441,421 円**

(2) 今後の進め方について審議

以下のスケジュールで今後審議を行うことについて了解いただきました。

※滋賀県に緊急事態宣言が発令されたことにより会議を延長したため、第2回以降の検討委員会の開催時期を前回資料から1か月後に変更しています。

回	時期	主な内容
第1回	7月28日	・委員会の立ち上げ ・検討委員会立ち上げの経緯・目的の説明 ・今後の進め方について
第2回	10月13日	・現状を整理するための調査方法協議（アンケート調査内容の検討等）
	11月中	・現状を整理するための各種調査の実施
第3回	12月中旬	・各種調査結果の報告 ・今後の在り方を協議
第4回	2月中旬	・答申（案）協議
	3月中旬	・市長への答申

2 各委員から出された今後の審議に関する意見（一部抜粋）

（1）今後審議するうえでの視点・意見

視点	各委員意見
①保護者のニーズ ・長時間の預かりの実施 ・保育の受け皿の拡大 ・教育理念を選べる環境 ・経済的負担を考慮 ・子育ての相談体制	・共働きの世帯がほとんどであり、長時間の預かりを希望する保護者が増えている。 ・山東地域内の保育施設が利用できないために、他地域の保育施設を利用する保護者もいる。 ・保育料無償化の影響により保育所と幼稚園の利用料に大きな差がなくなったため、長時間の預かりを実施する保育所を選択する保護者が増加している。 ・特色ある教育・保育を行うなどにより、教育理念を選択できる環境があればよい。 ・公立・私立経済的負担に差がでないよう配慮すべき。 ・未就園児家庭向けの子育て支援センターの必要性
②山東幼稚園の今後について ・施設の継続 ・利用時間の延長 ・子育て世代のニーズにあった利用 ・地域での子育て ・教育・保育内容の充実・向上	・山東幼稚園の継続を希望する声が多数ある。 ・幼稚園の預かり保育を延長すれば利用者は増える。 ・認定こども園でも幼稚園型認定こども園にできないか。 ・子育て支援センターなど、園児以外の利用者も踏まえた活用方法を検討すべき。 ・子どもの遊び場として活用 ・地域内（同じ小学校区）で子どもを育てる視点が必要 ・特色のある教育・保育（シュタイナー教育、森のようちえん等）の実施により、市内外にPR ・山東幼稚園で行う独自の教育・保育は大切にし、質は担保しなければならない。
③山東地域の実情 民間園との関係	・市の幼保一元化推進の流れの中で、民間園が多く立地する地域のため統合が進まなかった地域である。 ・山東幼稚園が4、5歳児保育から3～5歳児保育に拡大した際には、今後の運営への懸念から民間園から反対があった。

（2）アンケート調査の実施方法について

アンケートの対象者は山東幼稚園利用者だけでなく、他の施設の利用者からも取ったほうがよいのでは。



委員の皆様からの視点・意見を参考に事務局側で現状を整理するための調査方法案を作成しました。